

地域と大学を繋ぐコーディネーター機能に 関する一考察

氏名：長坂直哉（経済学部 4 年）

指導教員：長田進先生

2006 年改正の教育基本法にて、大学の第三の役割として社会貢献が掲げられたことにも表れているように、近年大学・地域間関係の重要性が認識されつつある。本稿では、大学の地域連携が注目されるに至った背景とその問題点について整理した後、大学地域連携コーディネーターの果たす役割の重要性を指摘した。続いて、コーディネーターに関する先行研究を整理した結果、①大学に所属するコーディネーターの立場からなされた研究が大半であること、②大学遠隔地との交流について明確に示されていないことが明らかになった。そこで、周辺に大学が存在しない地域におけるコーディネーターの事例として飛騨高山大学連携センターを取り上げ、聞き取り調査の結果をもとに考察を行った。その結果、①地域側コーディネーターを設置すること、②大学の地域連携センターを改革すること、③大学所属のコーディネーターの組織化を行うことが、特に大学とその遠隔地との連携の上で重要であるという結論を得た。